

愛知登文会ニュース 第40号

令和7年4月25日発行

1 事業実施報告「登録文化財保存活用シンポジウム」(2024度)

全3回のシンポジウムを会場とZoom併用で開催しました。

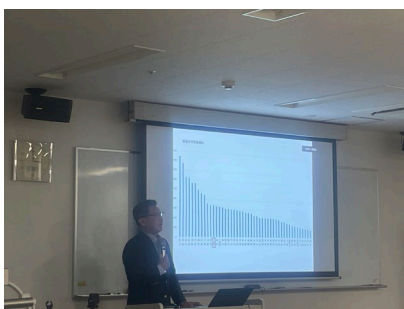
第1回 「登録文化財の登録をめぐる取り組み」

登録有形文化財の登録をテーマに、お二人から講演いただきました。石田氏からは文化財建造物を専門とする職員が着任することで、県内でどのような変化が生まれたかについてお話いただきました。御船氏からは、和歌山県の登録文化財をめぐる近年の取り組みの事例についてご紹介いただきました。

R6.11.20(水)	内容	参加者
14:00~ 16:30	①文化財建造物の専門職員の役割 指定と登録、保存と活用 講師：石田真弥氏（香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課 文化財専門員） ②登録有形文化財をめぐる和歌山県の取り組み 講師：御船達雄氏（和歌山県教育庁文化遺産課 専門員） ③意見交換 コーディネーター：小栗宏次（愛知登文会会長・愛知県立大学教授）	28名 (講師・事務局含む)



▲香川県での取り組みを紹介する石田氏



▲和歌山県での取り組みを紹介する御船氏



▲意見交換の様子

第2回 「愛知県内における文化財の保存活用の取り組み」

文化財の保存活用の取り組みについて、愛知県内2つの自治体からお話を伺いました。松雄氏からは、名古屋市の様々な計画における歴史・文化遺産の位置づけや、これらを活用したまちづくりについての事例をご紹介いただきました。河崎氏からは、令和4年度に策定した「犬山市文化財保存活用地域計画」の概要と計画に基づく具体的な文化財保護事業の取り組みをご紹介いただきました。

R6.12.18(水)	内容	参加者
14:00~ 17:00	① 文化遺産の活用と名古屋のまちづくり 講師：松雄俊憲氏（名古屋市副市長） ②「犬山市文化財保存活用地域計画」をめぐる犬山市の取り組み 講師：河崎溪太氏（犬山市教育委員会歴史まちづくり課） ② 意見交換 コーディネーター：川原田淳（愛知登文会理事 川原田家住宅）	33名 (講師・事務局含む)



▲名古屋市の歴史・文化遺産の活用について解説する松雄氏



▲犬山市の文化財保護事業解説する河崎氏



▲意見交換の様子

第3回 「民間事業者による古民家活用の取り組み」

古民家活用について民間事業者のお二人から講演いただきました。岡田氏からは、古民家を地域の文化を宿す大切な器として活用し、人を呼び込み、観光活力を町に再投資するという取り組みの事例を紹介いただきました。嶋田氏からは、山梨県の分散型ホテル「NIPPONIA 小菅 源流の村」や JR 青梅線の沿線まるごとホテル事業の取り組みについてご紹介いただきました。

R7.2.4(火)	内容	参加者
14:00～ 17:00	①古民家利活用を基軸としたまちづくり 講師：岡田岳史氏（株式会社つぎと取締役副社長） ②「村まるごとホテル」「沿線まるごとホテル」の取り組み 講師：嶋田俊平氏（株式会社さとゆめ 代表取締役社長） ③ 意見交換 コーディネーター：小栗宏次（愛知登文会会長・愛知県立大学教授）	47名 (講師・事務局含む)



▲古民家活用の事業を紹介する岡田氏



▲村・沿線まるごとホテル事業を紹介する嶋田氏



▲意見交換の様子

2 県外視察報告—愛知登文会独自事業（2024年度）

秋田の登録有形文化財・伝統的建造物群を訪問してみよう 愛知登文会事務局 石坂喜和

今年度は3月10日（月）～11日（火）、1泊2日で秋田県湯沢市と横手市を参加者8名で訪問しました。秋田登文会の佐藤会長（日の丸醸造）、事務局長の小山田さん（強首温泉 樅峰苑）、監事の佐藤さん（日大准教授）と集合場所の秋田空港とJR大曲駅で合流し、稲庭うどんで有名な佐藤養助で昼食の後、最初の訪問先である「旧湯沢酒造会館」では秋田ヘリテージマネージャーの清水川さんより解説でした。

続いては「両関酒造」へ。ここは秋田県で初めて国登録に登録された建物で、伊藤社長さんにご案内頂きました。

その後は「石孫本店」へ。前会長の石川さんによる案内で、味噌蔵など職人さんの様子を間近で見学しました。そして宿である「樅峰苑」へ。我々のために全館貸切にして頂き、温泉も源泉かけ流しで気持ち良く長旅の疲れも吹っ飛びました。夕食と朝食は地のモノをふんだんに使った料理長でもある奥様のお手製です。佐藤会長や岩清水さんも泊まれ、美味しい料理に加えて差し入れの地酒と共に夜遅くまで宴は続き楽しい一夜となりました。

翌朝は横手市へ移動し横手市増田重要伝統的建造物群保存地区へ。散策しながら訪れた箇所は「佐藤又六家（重文）」「旧松浦家住宅（重文）」「山吉肥料店（市指定文化財）」。昼食は林旅館で水そばを頂き、その後は「漆蔵資料館」、外観のみで「旧石田理吉家（市指定文化財）」、蔵の駅、そして最後に佐藤会長の「日の丸醸造」でした。会長自らのご案内に加え、試飲もさせて頂き自分は蔵元限定のお酒数本を実家に送りました。

どの建物にも中にはその家独自の立派な蔵が今でも大切に保存されていることに驚きました。外からは見えないけど、各家の歴史が刻まれていました。

今回の秋田視察は豪雪地帯ならではの建物の造りや悩みもわかりました。

秋田の皆さんとの交流は楽しく、どの視察先でも優しく接して下さり、参加して本当に良かったです。東北地方の新たな登文会の立ち上げも期待しています。



▲「樅峰苑」の前で集合写真

3 事業実施報告「オンライン登録文化財魅力体験シンポジウム」(2024 度)

愛知登文会では、コロナ禍であいちのたてもの博覧会のリアル開催ができなかった 2020 年にオンラインあいたて博と銘打って、登録有形文化財の魅力を紹介する動画を制作し、YouTube で公開しました。翌 2021 年度にもあいたて博とあわせて動画を制作・公開しました。

昨年度より、あいちのたてもの博覧会とは切り離し、登録有形文化財の魅力を紹介する動画を制作し、その動画をオンラインシンポジウムで公開し、意見交換を行っています。

今回の動画も YouTube で公開していますので、下記の QR コードからぜひ動画をご覧ください。

開催概要	公開した動画・動画の QR コード
<p>日時：令和 7 年 2 月 12 日（水） 13:30~15:30</p> <p>参加者：25 名(案内人・事務局含む) (うちオンライン参加 10 名)</p>  <p>▲動画公開の様子</p>  <p>▲意見交換の様子</p>	<p>① 南山学園ライネルス館（名古屋市）</p>  <p>1932 年開学のおり旧制南山中学校校舎として建てられた、南山学園の記念碑的建物です。</p>  <p>② 八丁味噌本社事務所（岡崎市）</p>  <p>味噌蔵の並ぶカクキュー八丁味噌でひと際目を惹く洋風の建物。愛知県で初めて国登録有形文化財に登録されました。</p>  <p>③ 日本多忠次邸（岡崎市）</p>  <p>徳川四天王のひとり、本多忠勝の末裔が東京世田谷に建てたスパニッシュ様式の洋風建築を移築・復原した邸宅です。</p> 
<p>日時：令和 7 年 3 月 4 日（火） 13:30~15:30</p> <p>参加者：25 名(案内人・事務局含む) (うちオンライン参加 10 名)</p>  <p>▲動画公開の様子</p>  <p>▲意見交換の様子</p>	<p>① 蒲郡クラシックホテル（蒲郡市）</p>  <p>昭和 9 年に、国際観光ホテルとして竹島を望む風光明媚な丘陵地に建てられた城郭風ホテルです。天守閣や客室、庭園、ロビーについて紹介しています。</p>  <p>② 建中寺（名古屋市）</p>  <p>徳興山建中寺は、慶安 4 年（1651 年）に二代尾張藩主徳川光友が父義直を弔うために創建した尾張徳川家の菩提寺です。</p>  <p>③ 間瀬家住宅（半田市）</p>  <p>半田市亀崎で廻船問屋を営んだ商家の住宅です。主屋は明治 17 年建築され、昭和 7 年に数寄屋造の座敷を増築しています。</p> 

4 事業実施報告「あいたてカード」(2024 度)

あいたてカード7枚追加&Ver.2,Ver.3を作成!

「あいたてカード」は、令和元年にあいたて博に合わせて制作したトレーディングカードで、その年の公開対象 50 か所について、建物情報や見どころをそれぞれ1枚にまとめたものです。

令和3年に新たに7枚のカード(No.51~No.57)を追加、令和5年に8枚のカード(No.58~No.65)を追加、今年は7枚のカード(No.66~No.72)を追加しました。また、一部の発行済みのカードについても、Ver.2,Ver.3を作成しました。

このカードは、建物を見学された方で希望される方にお渡ししています。あいたて博ご参加の際や、通常公開されている建物についてはお立ち寄りの際に、思い出を持ち帰るつもりでぜひ1枚お持ち帰りください。

表面の図柄は愛知登文会ホームページでも公開しています。



秋田の登録文化財の事例紹介

今回の秋田登文会への視察では愛知では見られない特徴的な登録有形文化財の姿を見ることができました。その中から3つをご紹介します。

大きな蔵が町家の中に



両関酒造の広い土間と内蔵(右) 豪雪地帯の秋田では冬場でも蔵との行き来が容易にできるような蔵が町家の中に作られています。酒造もたくさんありますが、いくつもの蔵が一体となっています。広い土間と大きな蔵の姿は圧巻でした。見ごたえあります。

内蔵を漫画原画の保存に活用



漆蔵資料館(マンガ原画アーカイブセンター) 内蔵が多数あり、「増田の内蔵」と呼ばれているのが横手市増田の重伝建地区です。一般公開されているところも多く、その内蔵の1つが「マンガ原画アーカイブセンター」として活用されています。増田は漫画家矢口高雄氏の出身地でその縁から漫画美術館が作られました。その活動としてマンガ原画保存に取り組んでおり、その貯蔵庫として使われなくなった内蔵が活用されています。

柱を外して大きな空間に



樺峰苑食事処(中央の柱が外せる) 田の字型の町家は愛知でも多く見られますが、その中心の柱を外すことができるというのは驚きです。広い空間とするための工夫だということで、宿泊した樺峰苑以外にも同様の町家が見られました。その他、降雪地帯ならではの雪処理の苦労や建物が壊されてしまうといった実態も知ることができました。

編集後記

2024年度の視察は秋田と遠方だったため参加が難しかった方が多かったのではと思いますが、秋田の登文会の皆さんと交流するとともに、地域の特徴を知ることができるよい機会となりました。今後もこのような形での視察が実施できればと思います。会員の皆さまのご参加をお願いします。

今年度も文化庁補助事業が採択されましたが、補助制度の変更(100%補助→最大85%)により、登文会としての資金負担が必要となりました。そのため、事業規模を縮小せざるを得ない状況ですが、会員の皆さまのご協力で事業を進めることができると幸いです。よろしくお願いいたします。

愛知登文会ニュース 第40号

発行日: 令和7年4月25日
 発行者: 愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
 〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目6番15号先
 名古屋テレビ塔株式会社内
 TEL 052-971-8546 FAX 052-961-0561
 E-mail info@aichi-tobunkai.org
 HP http://www.aichi-tobunkai.org
 Facebook @aichi.tobunkai
 Twitter @aichitobunkai
 Instagram aichitobunkai



LINE
(自動応答)